

令和7年度(令和6年度実施事業分)主要事業評価シート						No.	13-1
PDCA	主要事業名	観光振興事業	部課名	市民経済部観光課	担当 内線	濱田 328	
P 総合計画との関係性と予算根拠	総合計画： 2 - 1 - 1 単位施策： 観光						
	全体事業期間： 令和 6 年度 ～ 6 年度 全体事業費等： 37,851 千円						
	会計		一般会計		歳出科目： 06.01.04.02.50		
	事業概要等	事業概要： 半田市の観光資源「山車・蔵・南吉・赤レンガ」を活用し、観光振興を図る。名鉄とタイアップしたいいかも半田キャンペーン推進事業や発酵にスポットをあてた食の観光事業等の実施、また、半田市観光ガイドの刷新、インフルエンサーを活用した観光情報拡散促進事業等により情報発信と集客の強化を図る。					
		事業目的： 半田市の観光の魅力をより一層PRし、観光客の誘客や知名度を向上させるとともに、地域経済の活性化を図る。					
		事業内容： いいかも半田キャンペーン推進事業、食の観光推進事業、観光情報拡散促進事業ほか					
		問題点・課題等： 年齢層により情報収集の媒体が異なるため、様々なツールを活用し、効果的課題等： な情報発信を行う必要がある。					
	予算額	主要事業とする理由					
	37,851 千円	集客イベント開催、観光プロモーション、飲食店等への日常的な回遊、食の観光推進など、様々な分野の観光振興施策を展開する事業であり、半田市の観光振興を推進する上で根本的かつ中核的な事業であるため。					
	財源内訳	得られる成果					
	市費	観光客の増加や「歴史と文化のまち半田」の認知度向上による地域経済の活性化と半田市のイメージ向上を図ることができる。					
	20,839 千円	目標値や目指すべき状態					
国費	令和4年度 令和5年度 令和6年度 単位						
7,912 千円	年間観光入込客数						
県費	実績値 1,343 1,575 - 千人						
	目標値 1,027 1,699 1,743 千人						
0 千円	実績値 目標値						
	実績値 目標値						
その他	実績値 目標値						
9,100 千円							
D 実績値 得られた成果と	決算額	得られた成果					
	36,475 千円	既存の集客イベントに加えて、新たに本市を象徴する醸造・発酵にスポットをあてたブランディングやPRを行うことで、観光関係団体と連携したプロモーションの実施や民による新たな体験型コンテンツの造成や繋がり、観光入込客数増となった。					
	成果指標						
	令和6年度 単位						
	年間観光入込客数						
	実績値 1,822 千人						
目標値 1,743 千人							
C 課題の整理	事業の評価・課題	A					
		既存の観光施設や資源に加えて、本市が育んできた歴史や文化を象徴する醸造・発酵をキーワードとしたプロモーションやイベント等を実施することで観光入込客数は増加となった。また、いいかも半田キャンペーンによる広域PRやSNS広告の推進、旅行系インフルエンサーによるSNS観光情報発信などにより、新たな客層の誘客に繋げることができた。					
A 課題の解決に向けた今後	今後の事業の方向性	拡充推進					
		引き続き、デジタル社会の進展に沿った広報ツールの活用を推進するほか、本市に根差した醸造・発酵文化を核としたプロモーションやガストロノミーツーリズムに取り組む。また、観光施設や地域事業者とともにインバウンドも視野に入れた受け入れ態勢の強化を図るとともに、日常的な賑わい創出と地域経済の活性化に繋がる事業を実施していく。					
		必要性 有効性 効率性					
		①市の関与の妥当性 妥当 ④上位施策への貢献 大きい ⑦コスト削減 減余地 ある					
観点別評価	②市民ニーズ 高い ⑤成果向上の余地 ある						
	③休廃止の影響 大きい ⑥類似事業の有無 ない ⑧受益者負担適正化余地 -						
目標項目（予算計上時に作成）							
予算見積書で活用							
評価項目（決算時に作成）							
主要施策の成果報告書で活用							

令和7年度(令和6年度実施事業分)主要事業評価シート						No.	13-2																																					
PDCA	主要事業名	半田市観光協会支援事業	部課名	市民経済部観光課	担当 内線	濱田 328																																						
P 総合計画との関係性と予算根拠	総合計画： 2 - 1 - 1 単位施策： 観光 全体事業期間： 令和 6 年度 ~ 6 年度 全体事業費等： 10,000 千円 会計 一般会計 歳出科目： 06.01.04.02.56																																											
	事業概要等	事業概要： 本市に訪れる観光客の常時対応や観光イベントの企画・運営等、観光振興の中心的な存在である半田市観光協会の活動を支援する。																																										
		事業目的： 半田市観光協会の活動を支援することで、市全体のおもてなし体制を強化し、イベントを始めとする各種誘客施策を実施することで、本市の観光振興を推進する。																																										
		事業内容： 情報発信事業、観光企画創出事業、回遊性向上事業等の観光協会が実施する事業を支援する。																																										
		問題点・課題等： コロナ禍の影響により、人々の生活スタイルや価値観の変化など、観光を取り巻く環境が大きく変化しており、観光協会の事業運営も社会の変化に即した対応が求められている。																																										
	予算額	主要事業とする理由																																										
	10,000 千円	観光情報の発信、観光案内、観光イベントの企画運営や関係者間の調整など、大きな役割を担っている半田市観光協会を支援することは、本市の観光振興上重要であるため。																																										
	財源内訳	得られる成果																																										
	市費 10,000 千円	半田市観光協会の運営を支援することで、本市における観光振興施策を安定的かつ継続的に推進することができる。																																										
	国費 0 千円	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">目標値や目指すべき状態</th> <th>令和4年度</th> <th>令和5年度</th> <th>令和6年度</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">年間観光入込客数</td> <td>実績値</td> <td>1,343</td> <td>1,575</td> <td>-</td> <td>千人</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>1,027</td> <td>1,699</td> <td>1,743</td> <td>千人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2"></td> <td>実績値</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">その他</td> <td>実績値</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					目標値や目指すべき状態		令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	年間観光入込客数	実績値	1,343	1,575	-	千人	目標値	1,027	1,699	1,743	千人		実績値					目標値					その他	実績値					目標値			
目標値や目指すべき状態		令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位																																							
年間観光入込客数	実績値	1,343	1,575	-	千人																																							
	目標値	1,027	1,699	1,743	千人																																							
	実績値																																											
	目標値																																											
その他	実績値																																											
	目標値																																											
D 実績値と成果と	決算額	得られた成果																																										
	10,000 千円	半田市観光協会への補助金交付により、同協会の運営の安定化を図ることができた。また、観光案内業務や観光事業関係者との調整、ホームページの更新やSNS等による観光情報の発信などを行うことで、おもてなし体制の強化や市内外へ観光情報を広く発信することができた。																																										
		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">成果指標</th> <th>令和6年度</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">年間観光入込客数</td> <td>実績値</td> <td>1,822</td> <td>千人</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>1,743</td> <td>千人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2"></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					成果指標		令和6年度	単位	年間観光入込客数	実績値	1,822	千人	目標値	1,743	千人																											
	成果指標		令和6年度	単位																																								
年間観光入込客数	実績値	1,822	千人																																									
	目標値	1,743	千人																																									
C 課題の整理	事業の評価・課題	B 観光誘客のフロント業務として、ラジオやテレビ等のメディアへの情報発信や取材対応、ホームページやSNS等による観光情報発信などを行うことで誘客促進を図った。また、歴史や文化と醸造・発酵文化を核とした観光誘客を市と一体となっていくことで、市外からの誘客と関係人口の増加に繋がった。																																										
A 後課題の方向性	今後の事業の方向性	改善推進 従来の観光PRや自主開催によるイベントに加えて、本市が持つ醸造・発酵に関連した歴史や文化、施設等を中心にさらなる交流人口増加を推進するとともに、SNSやメディア等を活用した観光PRを行う。																																										
	観点別評価	必要性		有効性		効率性																																						
		①市の関与の妥当性 妥当	④上位施策への貢献 大きい	⑦コスト削減余地 ない																																								
		②市民ニーズ 高い	⑤成果向上の余地 ある																																									
	③休廃止の影響 大きい	⑥類似事業の有無 ない	⑧受益者負担適正化余地 -																																									

目標項目（予算計上時に作成）

評価項目（決算時に作成）

主要施策の成果報告書で活用

令和7年度(令和6年度実施事業分)主要事業評価シート					No.	13-3
PDCA	主要事業名	半田運河活性化推進事業	部課名	市民経済部観光課	担当	濱田
					内線	328
P 総合計画との関係性と予算根拠	総合計画： 2 - 1 - 1 単位施策： 観光					
	全体事業期間： 令和 6 年度 ～ 6 年度 全体事業費等： 13,696 千円					
	会計 一般会計 歳出科目： 06.01.04.02.57					
	事業概要等	事業概要： 半田運河の景観や周辺観光施設、醸造の歴史・文化を活かしたイベントを充実させることにより、年間を通じた賑わいの創出を図る。飲食出店に加えて音楽・醸造・アート企画を中心とした「半田運河HOTORI HOLIDAY」の開催や、四季を感じる装飾（風鈴等）を半六庭園に設置し、写真映えするスポットを創出する「半田運河誘客スポット設置事業」を拡充し、半田運河の魅力の発信を強化する。				
		事業目的： 半田運河の景観や歴史・文化を活かしたイベントを通して、半田運河の認知度の向上と、賑わいの創出を図る。				
		事業内容： 半田運河HOTORI HOLIDAY、Canal Night、萬三の白モッコウバラ祭等のイベントの実施、鯉のぼりの設置、半田運河誘客スポットの作成等				
		問題点： 半田運河周辺の飲食店等との連携 課題等：				
	予算額	主要事業とする理由				
	13,696 千円	歴史的景観、建造物や施設が残る半田運河周辺は、本市特有の観光資源であり、さらなる賑わいを創出するポテンシャルを有している。また、今後、JR半田駅の高架化や駅前土地区画整理事業の新しいまちづくりによる賑わいを創出するうえにおいても、半田運河の観光振興との連携は不可欠であるため。				
	財源内訳	得られる成果				
D 実績 得られた成果と	市費	半田運河の認知度・イメージの向上により、観光入込客数の増加による賑わいの創出やブランド力の向上を図ることができる。				
	10,827 千円	目標値や目指すべき状態				
	国費	令和4年度 令和5年度 令和6年度 単位				
	2,150 千円	半田運河周辺観光入込客数				
	県費	実績値 247 410 - 千人				
	0 千円	目標値 161 307 334 千人				
	その他	実績値				
	719 千円	目標値				
C 課題の整理	決算額	得られた成果				
	13,477 千円	歴史的・文化的施設を活用した誘客スポットの創出に加え、半田運河エリアと親和性が高い醸造・発酵文化を核とした半田運河周辺のブランディングを行ったことにより、観光入込客数は目標値を上回り、広く市民や観光客に半田運河の魅力を発信することができた。				
		成果指標				
		令和6年度 単位				
		半田運河周辺観光入込客数				
		実績値 521 千人				
		目標値 334 千人				
A 後課題の解決に向けた今	事業の評価・課題	A 既存のイベントである、春の半田運河の鯉のぼりや萬三の白モッコウバラ祭、夏のCanal Nightは、季節を感じる運河周辺イベントとして広く市民や観光客に定着しており、半田運河の知名度向上やブランド力向上に大きく寄与している。令和5年度に日常的な賑わい創出を目指す取組の一つとして、半六庭園内に風鈴棚を夏に設置したことに加えて、秋にランプによる写真映えスポットを設置したことにより、来訪客の立ち寄り先として半田運河エリアの回遊促進に繋がり、新たな客層の誘客にも繋がった。				
	今後の事業の方向性	拡充推進 日常的な半田運河周辺の賑わい創出のため、歴史的・文化的観光施設を活用しながら、新たな立ち寄り先の創出や回遊促進を目指す。また、名鉄知多半田駅・JR半田駅周辺における中心市街地活性化には、半田運河エリアの賑わいは不可欠であるため、JR高架事業や土地区画整理事業など周辺で行われている事業と連携して新たな立ち寄りスポットの創出を目指していく。				
	観点別評価	必要性 有効性 効率性				
		①市の関与の妥当性 妥当 ④上位施策への貢献 大きい ⑦コスト削減 減余地 ある				
		②市民ニーズ 高い ⑤成果向上の余地 ある ⑧受益者負担適正化余地 ※手段の変更				
		③休廃止の影響 大きい ⑥類似事業の有無 ない ⑧受益者負担適正化余地 ない				

目標項目（予算計上時に作成）

評価項目（決算時に作成）

主要施策の成果報告書で活用

令和7年度(令和6年度実施事業分)主要事業評価シート										No. 13-4	
PDCA	主要事業名	半田赤レンガ建物管理運営事業	部課名	市民経済部観光課	担当		濱田				
					内線		328				
P 総合計画との関係性と予算根拠	総合計画： 2 - 1 - 1 単位施策： 観光									目標項目（予算計上時に作成）	
	全体事業期間： 令和 6 年度 ～ 6 年度 全体事業費等： 64,136 千円										
	会計 一般会計 歳出科目： 06.01.04.03.06										
	事業概要等	事業概要： 観光客の市内回遊の拠点施設として多くの観光客を誘客するため、飲食提供、物販サービス、常設展示室公開、企画展・イベント開催、貸館サービス等に関して、民間事業者のノウハウや創意工夫による指定管理者制度を活用した管理運営を行う。									
		事業目的： 半田赤レンガ建物の歴史と文化財的価値の発信を通して、認知度向上と来訪者増加を図る。									
		事業内容： 指定管理者による半田赤レンガ建物の管理運営									
		問題点・課題等： 新型コロナウイルス収束後もコロナ以前の集客数まで戻っておらず、誘客イベントや建物自体の魅力の磨き上げやターゲットに則した情報の発信が必要。									
	予算額	主要事業とする理由									
	64,136 千円	全国屈指の規模を誇り、文化財的価値もある建物を観光資源として有効活用することは重要であるため。									
	財源内訳	得られる成果									
市費 63,825 千円	建物がもつ歴史と文化財的価値の市内外での認知が進み、市民の郷土愛の醸成と来訪者の増加が期待できる。										
国費 0 千円	目標値や目指すべき状態										
県費 0 千円			令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位					
その他 311 千円	半田赤レンガ建物来場者数	実績値	411	373	-	千人					
		目標値	300	520	530	千人					
		実績値									
		目標値									
		実績値									
		目標値									
D 実績・得られた成果と	決算額 63,939 千円	得られた成果									主要施策の成果報告書で活用 評価項目（決算時に作成）
C 課題の整理	年間来場者数は目標値には達しなかったものの、話題性のある新たな企画展の開催や、WEB雑誌への掲載といった新たな広報手段の導入により、来場者数は前年度比127.9%となり、建物の歴史的価値や魅力を発信することができた。										
	成果指標					令和6年度	単位				
	半田赤レンガ建物来場者数	実績値	477	千人							
		目標値	530	千人							
A 課題の方向性	事業の評価・課題	前年度に引き続き、インフルエンサーを活用したイベントのPRを実施したほか、新たな広報手段としてWEB雑誌への掲載を行うなど、広域的なプロモーションによる誘客を図った。また、ガイドツアーの内容見直しを行い、来場者の満足度向上に務めた。一方、年間来場者の合計は目標値には達しておらず、日常的な誘客を図るための取組が必要である。									
	今後の事業の方向性	改善推進									
観点別評価		必要性		有効性		効率性					
		①市の関与の妥当性	妥当	④上位施策への貢献	大きい	⑦コスト削減余地	ある	※対象・手段の変更			
		②市民ニーズ	高い	⑤成果向上の余地	ある	⑧受益者負担適正化余地	-				
		③休廃止の影響	大きい	⑥類似事業の有無	ない						

令和7年度(令和6年度実施事業分) 主要事業評価各課総括表・2次評価表

2次評価者

市民経済部観光課

市民経済部長 大山 仁志

整理No.	主要事業名	事業の評価・課題		今後の事業の方向性	
		自己評価	評価内容	方向性	内容
13-1	観光振興事業	A	既存の観光施設や資源に加えて、本市が育んできた歴史や文化を象徴する醸造・発酵をキーワードとしたプロモーションやイベント等を実施することで観光入込客数は増加となった。また、いいかも半田キャンペーンによる広域PRやSNS広告の推進、旅行系インフルエンサーによるSNS観光情報発信などにより、新たな客層の誘客に繋げることができた。	拡充推進	引き続き、デジタル社会の進展に沿った広報ツールの活用を推進するほか、本市に根差した醸造・発酵文化を核としたプロモーションやガストロノミーリズムに取り組む。また、観光施設や地域事業者とともにインバウンドも視野に入れた受け入れ態勢の強化を図るとともに、日常的な賑わい創出と地域経済の活性化に繋がる事業を実施していく。
13-2	半田市観光協会支援事業	B	観光誘客のフロント業務として、ラジオやテレビ等のメディアへの情報発信や取材対応、ホームページやSNS等による観光情報発信などを行うことで誘客促進を図った。また、歴史や文化と醸造・発酵文化を核とした観光誘客を市と一体となって行うことで、市外からの誘客と関係人口の増加に繋がった。	改善推進	従来の観光PRや自主開催によるイベントに加えて、本市が持つ醸造・発酵に関連した歴史や文化、施設等を中心にさらなる交流人口増加を推進するとともに、SNSやメディア等を活用した観光PRを行う。
13-3	半田運河活性化推進事業	A	既存のイベントである、春の半田運河の鯉のぼりや萬三の白モッコウバラ祭、夏のCanal Nightは、季節を感じる運河周辺イベントとして広く市民や観光客に定着してきており、半田運河の知名度向上やブランド力向上に大きく寄与している。令和5年度に日常的な賑わい創出を目指す取組の一つとして、半六庭園内に風鈴棚を夏に設置したことに加えて、秋にランブによる写真映えスポットを設置したことにより、来訪客の立ち寄り先として半田運河エリアの回遊促進に繋がり、新たな客層の誘客にも繋がった。	拡充推進	日常的な半田運河周辺の賑わい創出のため、歴史的・文化的観光施設を活用しながら、新たな立ち寄り先の創出や回遊促進を目指す。また、名鉄知多半田駅・JR半田駅周辺における中心市街地活性化には、半田運河エリアの賑わいは不可欠であるため、JR高架事業や土地区画整理事業など周辺で行われている事業と連携して新たな立ち寄りスポットの創出を目指していく。
13-4	半田赤レンガ建物管理運営事業	C	前年度に引き続き、インフルエンサーを活用したイベントのPRを実施したほか、新たな広報手段としてWEB雑誌への掲載を行うなど、広域的なプロモーションによる誘客を図った。また、ガイドツアーの内容見直しを行い、来場者の満足度向上に務めた。一方、年間来場者の合計は目標値には達しておらず、日常的な誘客を図るための取組が必要である。	改善推進	引き続き、有効な広報手段を探りプロモーションを行っていくほか、年間を通じた企画展及び展示に合わせたイベント等の開催により、日常的な誘客促進を目指す。また、令和7年度からの新たな指定管理者と連携し、建物の新たな機能の創出や魅力の向上を行うことで、シビックプライドの醸成やさらなる誘客を図る。
課等長	1次評価（令和6年度の総括評価）				
B	SNSやWebによる広報を積極的に活用し、幅広い層に本市の魅力発信することができ、来訪に繋げることができた。日常的な誘客を目指し、旅行系インフルエンサーを活用した観光施設の紹介や半六庭園内に季節を感じる映えスポットの設置などを行うことで、新たな客層の誘客を図ることができた。半田赤レンガ建物について、年間来場者数は昨年度より増加しているものの、目標値には達していないため、引き続き日常的な誘客を目指すとともに、令和7年度からの新たな指定管理者との連携を図っていく。				
部等長	2次評価（令和6年度の総括評価並びに今後の方針及び指示事項）				
B	観光客の価値観やニーズが大きく変化している中、新たな情報拡散・誘客事業に取り組み、新規来訪者の増加や本市の知名度向上に繋げることができた。今後、この地域が培ってきた歴史や文化を活用し、地域に根差した観光を推進するため、観光施設やその周辺エリアにおける受け入れ態勢の整備と情報発信の強化を図ること。また、地域事業者との連携を強めるとともに市民を含めた観光関係人口の増加を図り、地域の活力向上を目指すとともに、インバウンドも視野に入れた観光分野における新たな価値の創出に取り組むこと。				